

# 教育環境創出



大和リースに感謝状が贈られた



落成式典

長生郡長南町が進めていた、町内四方所の小学校を統合するとともに、小中一貫校とするための新たな小学校が竣工し、このほど完成を祝う祝典が開かれ、多数の来賓らが明日を担う子どもたちのための学び舎の完成を祝った。

祝典では、平野町長が式辞を述べ、工事などの経過が報告された。続いて、設計施工請負者の大和リース株式会社千葉支店に対して、町長が優秀な出来形で工事を完成させたとして、感謝状を贈呈した。

これを受け大和リースは、「われわれにとって長南町は、工業団地に入

った、町内四方所の小学校を統合するとともに、小中一貫校とするための新たな小学校が竣工し、このほど完成を祝う祝典が開かれ、多数の来賓らが明日を担う子どもたちのための学び舎の完成を祝った。

祝典では、平野町長が式辞を述べ、工事などの経過が報告された。続いて、設計施工請負者の大和リース株式会社千葉支店に対して、町長が優秀な出来形で工事を完成させたとして、感謝状を贈呈した。

これを受け大和リースは、「われわれにとって長南町は、工業団地に入

トックヤードがあり、地元ともいえるところで、ぜひ仕事がしたいと思いを参加しました。今回、無事故・無災害で引き渡すことができ、ほっとしています。新生小学校で生徒が元気に学び、グラウンドで運動する、そして社会に巣立ってゆく、そんなお手伝いをさせていただきます。いただいたことを誇りに思っています」などお礼の言葉を述べ、町政の発展を祈念した。

以下、来賓あいさつの概要は次の通り。  
板倉正勝町議会議長  
教育施設の整備は、現下の厳しい財政状況にもかかわらず、このたび立派な校舎として成果を上げ

ようとしております。校舎は、機能性・デザイン性を重視し、小集団による個に応じた指導が可能になるスペースの確保、環境に配慮し、耐震性及び安全性を確保した他の地域には見られない立派な校舎として、児童の皆さんはもちろんのこと、先生方や保護者各位の感慨もひとしおのものがあろうかと思えます。児童の皆さんは、この充実した施設、設備を十分に活用していただき、ますます勉学に励まれ社会の一員、さらには担い手として活躍する日のために心身を鍛錬していただき、新しい歴史を刻み、発展されるよう心から念願し、習い運動に励んでください。

鈴木栄治主席指導主事（県教育庁東上総教育事務所） 町の未来を担う子どもたちの校舎の建設に、多くの方々が努力され、立派な学校になったことに敬意を表します。

現在の学校教育は、タブレットやパソコンの活用など、情報教育が加速度的に変化しております。そのような社会をたくましく生きてゆく、といった教育を町でも進めていただきたいと思います。歴史ある四つの小学校の閉校は、地域にとってさびしい限りですが、同時に新小学校に対する期待も高まっております。これからも学習運動に励んでください。

習い運動に励んでください。

## 式 辞

### 校舎とともに新たな歴史

#### 平野貞夫長南町長



目指し、工事が可能となり、安全・期の短縮、安心に配慮しているところ費用の縮減を図るため、教室前には、ワークスペースを設け、全室冷暖房完備、エレベーターには、多目的トイレ、スロープを設け、バリアフリー

本日ここに、4小学校を統合した新生長南小学校校舎が無事完成し、ご多用中にもかかわらず、多数のご来賓の臨席を賜り、かくも盛大に落成式が挙行できますこと、この上ない喜びであり、心より厚く御礼申し上げます。

今日に至るまで、町では、近年の児童数の減少に伴い、よりよい教育環境の整備・充実を図るため、平成22年度、長南町学校規模適正検討委員会を立ち上げました。その後、平成24年度には、長南町学校適正配置検討委員会を組織し、方向性を決め、平成26年度からは長南町小中一貫校設立委員会において、具体化について検討を重ねてきたところでございます。

平成29年4月の開校を



新 校 舎

# 新たな学び舎が落成

## 長南町統合小学校工事等経過報告

- ▽平成 22 年 5 月 1 日＝長南町学校規模適正検討委員会設置
- ▽24 年 7 月 1 日＝長南町適正配置検討委員会設置
- ▽26 年 6 月 23 日＝長南町小中一貫校設立委員会設置
- ▽27 年 5 月 15 日＝一括発注方式支援業務委託締結（NPO法人建設技術監査センター）
- ▽同 6 月 8 日＝（仮称）長南小中一貫校建設に伴う公募型プロポーザル・デザインビルド方式の手続き開始の公示
- ▽同 6 月 25 日＝長南町小中一貫校建設事業審査委員会設置
- ▽同 9 月 11 日＝長南町議会全員協議会（土砂法による学校建設位置の移動について）
- ▽同 9 月 17 日＝長南町定例議会提案（建設位置変更に伴う予算措置）。公募型プロポーザル・デザインビルド仕様書の変更公告
- ▽同 11 月 5 日＝技術提案書のプレゼンテーション・ヒアリング
- ▽同 11 月 16 日＝長南町議会全員協議会・臨時議会。建設工事請負契約締結（大和リース株式会社千葉支店。工期・27 年 11 月 17 日～28 年 11 月 30 日）
- ▽28 年 3 月 1 日＝建設工事着工
- ▽同 9 月 30 日＝建設工事完了



教室



放送室

# 長南統合小学校(小中一貫校)開校

平成28年(2017年)1月27日(金曜日)



## 長南町小中一貫校工事監査を終えて

### 新時代の交流の場を創出

### 特定非営利活動法人建設技術監査センター 専務理事 成岡 茂

この度、機会に恵まれて長南町の小中一貫校の整備に対して、技術支援を行うことができました。今回はその取り組み経過やそこで得られた知見を明らかにし、今後のような取り組みをされる町村の皆様に対して紹介をしたいと思います。

現在、文部科学省が一貫校の取り組みを強化しており、一貫校を増やす計画が進んでいます。その先端を行く計画なので、われわれも強力にバックアップいたしました。

■PDB(Proposal Design, Build)を採用した理由は、

長南町は平成15年、平成19年と2度にわたる長生都市における合併協議はいずれも頓挫しており、県内の人口減少自治体の第2位にあります。人口は昭和30年の1万5081人をピークに平成27年には8600人まで減少し少子高齢化が著しい状況です。

市内に4校ある小学校(東小、西小、長南小、豊栄小)が数年後には、いずれも少数後となり複式学校にならざるを得ない状況でありました。そのため、町の教育委員会は、平成22年11月からPTAや学校関係者で構成する長南町学校規模適正検討委員会、小中一貫校設立委員会、適正配置検討委員会を開催しその対策を検討しました。

少なくとも平成31年には複式学校となることから2校ずつ統合する2段階統合案もありましたが、最終的には平成29年度開校を目指して、4校合同の統合小学校を現長南中学校の敷地の中に「小中一貫校」として建設することとしました。

平成の現在は、国も地方自治体もPDB発注方式の採用を宣言し、多くの実績が報告されています。優れたPDBの事例としては、松原市庁舎の耐震補強工事があげられます。PDBでの提案により当初が予定していた予算の8分の1の費用で、鉄骨ブレース外付け工法による補強工事を行い耐震性能の確保と工期短縮が図られました。また、環境に配慮して壁面緑化も行われました。

わが国は平成3年、6年のパブル崩壊により財政は破綻し建設投資額は平成4年の84兆円をピークに平成15年には50兆円に減少し、回復していません。ここに建設業界の受注競争が激化し、入札談合、タンヒング受注、入札不調、建設就業者の減少などによる公共工事の品質低下が懸念されました。

わが国の会計法は一般競争入札、指名競争入札、随意契約以外の契約方式は認められていませんがこの設計・施工分離方式では、これらの課題に対応しきれなくなってきました。ここに平成17年に施行された「公共工事の品質確保の促進に関する法律(品質法)」の21条、22条に発注関係事務を適切に実施することができ

る者の活用や知識、技術に優れた者の支援、活用について明記し、民間の優れた最新技術を生かしたPDB総合評価落札方式が明確に位置づけられました。

PDB方式は発注者の総合評価技術と入札価格比較で最も優れた業者を選定することが原則ですが、大和リース株式会社(以下大和リース)の経営事項審査のランクが全セコン中5位にランクされていることISO9000と4000の認証を受けていることを評価して大和リースのPDB方式の執行を認め、同年9月に技術提案プレゼンテーションを行い、大和リース株式会社を選定しました。大和リース株式会社は町の工業団地にストックヤードをもち、従来から町に貢献していた企業です。

■建築の整備条件をどのようにして結ぶのか  
計画に当たっては、町が持つ教育方針を掲げ、国庫補助金も得られるように事業スケジュールを決定しました。発注条件として「どんな学校が欲しいのか」について、町と当センターの担当者、PDBは、発注者の設計条件、要求事項をどのようにするかを詰め、平成27年春に発注条件の整備を行い公募されました。建物内の位置は、当初中学校用地内の柔剣道場を解体した跡地を予定していましたが、ここは県が新たに指定予定の防災危険エリアの一部に入っていることが判明し、グラウンドに沿った場所に変更されました。この場所に新たな校舎を建築する計画とするため、設計提案の期限を2カ月延期し、参加企業の募集を行いました。これにに応じた会社は東日本大震災の影響もあり、1社に留まりました。

■計画・設計上配慮した事項  
計画は、鉄骨造3階建てで、延べ床面積は18028㎡、11教室の内、4教室前の廊下には、アールコアのワークスペースを設置し、少人数教育にも対応できるしつらえとして、校舎は南北にグラウンドに沿って

既存の中学校の校舎群とほぼ字型の配置とし、渡り廊下で接続しています。以下、計画・設計の要点を列挙します。

△校舎南側から敷地内に入りグラウンドに沿って校舎西側を通り、建物中央部分に配置した昇降口からアプローチする。職員室を南側に配置すること、生徒の登下校での見守りができる。

△渡り廊下を既存中学校と繋げたことで、中学校の特別教室を小学生が雨降りの日もスムーズに移動できる。

△給食配膳のためエレベーターを設置したこと、上下移動のバリアフリー化が図られた。

△中学生と小学生の交流の場として、小学校舎前にウッドデッキを設置した。ここでは夏季の日差しを避け、のびやかなスペースとするため落葉高木の植樹を勧めている。

△校庭グラウンドに沿って校舎を配置したこと、グラウンドを俯瞰しやすい配置となった。放送室は3階の西側に設け、グラウンド側を見ながらアナウンスができる。設計打ち合わせの際、その内容を町に報告している。当センターの体制としては、総合担当主任技術者(建築担当)、主任、電気設備担当、機械設備担当、地質・基礎担当を配置した。

以下、施工監査での対応を列挙します。

△空調機器などの設備を建物中央部に集中させ一元管理が可能となった。本来、工事監査では設計終了後の監査を行うことになっているが、今回は設計内容の精査も含め町と事業者の打ち合わせにも加わった。設計終了時点で設計監査を実施し、設計・積算内容の適切性について監査を行い、「設計監査報告書」を町長に提出している。

△工事監査で配慮した点  
工事の進捗に合わせ月1回の総合打ち合わせ時に、監査センターの担当者も出席し、各工事の段階における月次監査を行っている。その内容を町に報告している。当センターの体制としては、総合担当主任技術者(建築担当)、主任、電気設備担当、機械設備担当、地質・基礎担当を配置した。

以下、施工監査での対応を列挙します。

△基礎の段階では、当

立場ではありながら、時として中身に入り込み相談に乗り、事業より良い方向に進むように対応しています。このことを通じて、町民やユーザーにとってより充実した建築が実現できるように努力することを、技術者として専門家に尽きると思えます。

■長南町に期待すること  
今回の統合小学校が、中学校とも連携し小中一貫校としてより充実した教育機能が発揮できるよう新設校舎を活用していただきたい。今回の校舎は、一斉教育の教室に加えてワークスペースを備え、少人数教育にも機動的に対応できる計画となっています。大学の専門家の協力も得て、より有効な施設活用方法を工夫し取り組むメニューも用意されています。

小中一貫校のメリットは、小学生を中学生が兄弟として面会を見ることが、即ち「いじめ対策」になるかと考えられるので、今後は「いじめ問題」が少なくなるものと考えています。また、小中一貫校も併用することから、各校の特別設計段階では計画・設計の適切性、施工段階では各工事の内容を技術的に吟味し適切に実行されているかどうかを確認している。

新しい時代の教育のあり方も模索し、充実した教育が実施され、明るく個性を育てていくだけでなく、期待しております。